



# 第3章

---

## 思い出編



## 北信州森林組合設立 20 周年によせて

総務参事（当時） 宮沢 邦彦



お世話になった北信州森林組合を退職して早 18 年となりました。年を重ね過去のことが消え去り、寄稿を依頼されてとまどいを感じながら気を取りなおし、合併当時の思いを紐といてみました。

私が、飯山市森林組合にお世話になったのは、平成 12 年 4 月 1 日からでした。そして、平成 13 年 12 月 1 日北信州森林組合に籍を移すこととなりました。

「当時、住宅関連事業が上向きに推移し国内林業の活性化が期待されたが、外材の増加による国内産の木材の需要が伸びず期待倒れとなるなどにより森林の荒廃が進んだ。一方では、森林の果す役割は国土の保全等多面的な役割を果しており、国・県等においてもその重要性が認識され、いろいろな施策が講じられてきていた。」

県（北信地方事務所林務課）の指導を仰ぎながら岳北・南 7 市町村森林組合が、合併を推進する方向で足並を揃えることとなりました。しかし、各組合とも諸事情があり克服すべき課題が多くありました。

平成 12 年中頃から 13 年前半にかけて、詰の協議が行われてきました。私の記憶の中では、平成 13 年 8 月 1 日の設立委員会で栄村森林組合を除き 6 市町村での合併に漕ぎつけました。思いをまとめるなかで鮮明に残っている事は、合併決定後に一部合併辞退の動きがあり何とか事態を治めることができたが詰の甘さが露呈し反省したものでした。又職員（現場も含め）の給与等処遇についても組合間で、大きな差があり五ヶ年計画での解消計画を立て理解と協力をいただき深く感謝いたしました。

さて近ごろ「ウッドショック」の活字が、新聞等により目に止まります。これは欧米の住宅事情の高まりと、新型コロナによる木材の供給不足により木材価格が高騰しているのが要因のようです。これらを機会に木材の有利販売や森林の整備が進み、併せて組合の益々の発展を祈念しています。



理事会

## 北信州森林組合設立 20 周年に寄せて

広域合併推進協議会幹事長  
北信地方事務所林務課長（合併時） 北島 邦造



北信州森林組合設立 20 周年おめでとうございます。

私と北信州森林組合との関わりは、平成 12・13 年度の 2 か年でした。

当時の林政の課題は、植えて育てる時代から伐採して使う時代が変わり、森林組合も造林事業から林産事業に対応していくためには大型合併が求められていました。

着任早々の平成 12 年 4 月 12 日北信合同庁舎講堂に中野市森林組合、飯山市森林組合、山ノ内町森林組合、木島平村森林組合、野沢温泉村森林組合、豊田村森林組合の 6 組合と関係市町村、県等関係機関が参加して北信地区森林組合合併推進協議会が設立され、その後、関係者のご努力、ご支援、ご協力により、平成 13 年 7 月 6 日飯山市において 6 組合による合併予備契約調印式が行われ、平成 13 年 12 月 1 日に北信州森林組合が発足したことを思い出します。

あれから 20 年、組合役職員のご努力により、事業体制も林産事業に大きくシフトし、民有林受託事業が森林関係部門の 85 パーセントを占めているとのこと。このためには最新技術を使い境界明確化を図り、地域集約化による計画施業体制を構築し、ICT を活用した林業のスマート化を進めているとのこと、大変心強く感じています。

終わりに、設立 20 周年を一つの契機として、地域林業振興のリーダーとして更なる飛躍を遂げられるよう祈念しております。



広域合併推進協議会

